

日本研究・知的交流事業に必要な経費

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費

- (1) 日本研究調査〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究組織強化支援（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究機関支援〔欧州・中東・アフリカ〕

2. 人物交流事業費

- (1) 日本研究フェローシップ（学者・研究者）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 日本研究フェローシップ（論文執筆）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (3) 日本研究フェローシップ（短期）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (4) 知的リーダー交流（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (5) 知的リーダー交流（派遣）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (6) 知的交流フェローシップ（招へい）〔欧州・中東・アフリカ〕

3. 催し等事業費

- (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕
- (2) 知的交流会議（助成）〔欧州・中東・アフリカ〕

欧州・中東・アフリカ交流事業費

1. 日本研究事業費 / (1) 日本研究調査 [欧州・中東・アフリカ]

世界の主要な地域の日本研究機関を調査し、日本研究機関と研究者のディレクトリーを作成する。

合計額 4,194,807 円

	事業名	対象国	期間	事業内容
1	ディレクトリー出版	欧州地域区分困難	2008.04.01 ~ 2008.12.31	欧州日本研究調査に関する結果を報告書にまとめ刊行。

1. 日本研究事業費 / (2) 日本研究組織強化支援 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

国境・学問分野を越えた日本研究者・研究機関間の連携、相互協力を推し進めるべく、学会の横断的な組織化を支援する。

合計額 32,851,272 円

	対象機関	対象国	期間	事業内容
1	英国日本研究協会	英国	2008.04.11 ~ 2008.04.12	英国日本研究協会の年次総会開催経費を支援。
2	ヨーロッパ日本研究協会 (EAJS)	欧州地域区分困難	2008.04.01 ~ 2009.03.31	欧州随一の日本研究者の協会。事務局経費、ホームページ経費、会報発行経費などの経常費を支援。そのほか、3年に一度の総会開催 (2008年9月、サレント大学 (イタリア・レッツェ市)) 経費の一部を支援。
3	トルコ日本研究学会	トルコ	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本及びトルコ国内からスピーカーを招き、全4回の日本研究学会を実施。
4	フランス日本研究学会	フランス	2008.04.01 ~ 2009.03.31	フランス唯一の日本研究学会による2年に1度の会議で、フランス内外の日本研究ネットワーク (日本研究者、研究機関間) の一層の強化を図る。今回は「多角的視座から見た日本の近代」という全体テーマのもと、共同研究によるパネル発表、シンポジウム等を実施。
5	ロシア日本研究者協会	ロシア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	事務局経費、紀要編集・出版、教科書作成、ウェブサイト運営経費等を含む支援。
6	日本資料専門家欧州協会 (EAJRS)	欧州地域区分困難	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本資料に携わる司書・学芸員・研究者の協会。日本関連資料の情報を収集し、ネットワーク化を図る。毎年総会でテーマが設定され、今回のテーマは、イベリア半島 (ポルトガル) にある資料や関係者の情報共有化、及び日本近隣 (韓国、台湾) での日本資料・関係者の情報共有化。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
7	ジャパン・ライブラリー・グループ天理ワークショップ準備委員会	英国	2008.04.01 ~ 2009.03.31	2007年度より天理大学において、海外の日本研究司書を対象に古典籍を中心とする3年継続の研修を実施。海外の司書約20名が参加。

1. 日本研究事業費 / (3) 日本研究機関支援 [欧州・中東・アフリカ]

各国において日本研究の中核的役割を担うべき単一・少数の機関に対し、日本研究事業の拡充・発展に必要な様々な支援を、包括的、集中的且つ中長期的に行い、当該国の日本研究基盤となる拠点機関の整備を進める。

合計額 45,650,234 円

	事業名	機関所在国	期間	事業内容
1	アイスランド国立大学	アイスランド	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
2	ヴェネチア大学	イタリア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	古典日本語授業担当講師の人件費助成、集中講座「漢学教育：その過去と未来」への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
3	ミラノ国立大学	イタリア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	現代日本政治外交研究者への給与助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
4	マンチェスター大学	英国	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
5	シェフィールド大学	英国	2008.04.01 ~ 2009.03.31	ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
6	リーズ大学	英国	2008.04.01 ~ 2009.03.31	ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成。
7	ライデン大学	オランダ	2008.04.01 ~ 2009.03.31	ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
8	ミュンヘン大学	ドイツ	2008.04.01 ~ 2009.03.31	ミュンヘン大学、ライデン大学、リーズ大学、シェフィールド大学の4機関による「現代日本研究ネットワーク」事業への助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
9	バルセロナ自治大学	スペイン	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	対象機関	対象国	期間	事業内容
10	サラマンカ大学	スペイン	2008.04.01 ~ 2009.03.31	国際関係論分野の客員教授を日本から派遣。日本研究関連の図書寄贈。
11	国立政治学院	フランス	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本から客員教授の派遣。
12	ルーヴァン・カトリック大学	ベルギー	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
13	タシケント国立東洋学大学	ウズベキスタン	2008.04.01 ~ 2009.03.31	思想文化史専門の客員教授を日本から派遣。
14	ザグレブ大学哲学部	クロアチア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本文学専門の客員教授を日本から派遣。日本研究関連の図書寄贈。
15	コメンスキー大学	スロバキア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
16	ソフィア大学	ブルガリア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	言語学・日本語学の授業を担当する助教授の人件費助成。
17	極東国立総合大学東洋学大学	ロシア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本の大学・研究機関における資料収集への支援。
18	北東アジア諸国現代研究センター	ロシア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
19	ヘブライ大学東アジア学科	イスラエル	2008.04.01 ~ 2009.03.31	「第7回イスラエル・アジア研究学会」への助成、及び日本からの客員教授の派遣。
20	バグダッド大学	イラク	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本史関係を中心とした日本研究関連の図書寄贈。
21	テヘラン大学	イラン	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本文学及び文学史授業を担当する日本人講師の人件費助成、及び日本研究関連の図書寄贈。
22	ダマスカス大学	シリア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本から客員教授を派遣し日本研究方法論に関する講義を実施、及び日本研究関連の図書寄贈。
23	ボアジッチ大学	トルコ	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本研究関連の図書寄贈。
24	アインシャムス大学外国語学部	エジプト	2008.04.01 ~ 2009.03.31	日本から客員教授を派遣し日本文化論の講義及び論文指導を実施。日本研究関連の図書寄贈。
25	エオトヴェシ・ロラーンド大学 (ELTE)	ハンガリー	2008.04.01 ~ 2009.03.31	国文学者の故福田秀一氏の遺族から寄贈された蔵書約2,000冊の送料の助成。

2. 人物交流事業費 / (1) 日本研究フェローシップ (学者・研究者) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査活動を行う機会を提供する。

合計額 49,321,367 円

	氏名	現職	対象国	受入機関	期間	研究テーマ
1	MWAIGOMOLE, Emmanuel Asukenye	ダルエスサラーム大学開発研究所	タンザニア	神戸大学	2007.05.29 ~ 2008.04.28	経済発展のための公私協働
2	SHEVTSOVA, Galyna Viktorovna	キエフ国立建設・建築大学建築 助教授	ウクライナ	近畿大学	2007.06.28 ~ 2008.06.26	日本・ウクライナの木造建築の技法と初期形成過程の比較研究
3	RASULOV, Abdujabar	世界経済外交大学数理経済学科教授 (副学長兼務)	ウズベキスタン	早稲田大学	2007.08.15 ~ 2008.07.14	中央アジアにおける実証経済分析のための数学的手法の応用研究
4	MADSEN, Yasuko	イェーテボリ大学東洋アフリカ言語学科 教授 (文学博士)	スウェーデン	琉球大学	2007.09.01 ~ 2008.08.31	琉球方言におけるイントネーション体系の研究
5	PIERCONTI, Jong Kuk Mauro	ヴェネチア建築大学 博士課程	イタリア	東京大学	2007.09.02 ~ 2008.08.29	白井晟一と日本現代建築 (1905-1983)
6	DOMENIG, Roland	ウィーン大学東アジア研究所 講師	オーストリア	明治学院大学	2008.02.03 ~ 2009.01.31	日本におけるスクリーンプラクティス (映写文化活動) 1800~1920
7	BREEN, John Lawrence	ロンドン大学 SOAS 日本研究センター 教授	英国	京都大学人文科学研究所	2008.03.03 ~ 2008.07.22	日吉大社：近世、近代現代日本における神社と神道を吟味する
8	VOROS, Mihaly Laszlo	近代経営学術大学国際経済学科 教授	ハンガリー	早稲田大学	2008.03.18 ~ 2009.03.17	日本における農村社会の形成に関する研究：中東欧の持続可能な農村開発に対する政策的含意
9	KOMORI, Naoko	英国マンチェスター・ビジネス・スクール (投資リスク研究所) 会計・財務 研究員	英国	同志社大学ワールドワイドビジネス研究センター	2008.03.30 ~ 2008.09.29	グローバリゼーションの日本企業・社会の影響；会計基準調和化が日本企業のコーポレート・ガバナンスに与える影響とグローバリゼーションによる金銭教育 (フィナンシャル・リテラシー) の重要性

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	対象国	受入機関	期間	研究テーマ
10	RAKOTOMANANA, Solofoniaina Ambinintsoa	アンタナナリボ 大学 日本語教師	マダガスカル	広島大学	2008.06.04 ~ 2009.03.16	日本のテレビコマーシャルとマダガスカルテレビコマーシャルから見たコミュニケーションの比較研究
11	KORDZINSKA- NAWROCKA, Iwona	ワルシャワ大学 東洋学研究所 准教授	ポーランド	信州大学	2008.06.15 ~ 2008.09.29	日本古典文芸における人間像の研究
12	SIDERER, Yona	ヘブライ大学東 アジア学科 上級講師	イスラエル	東京工業大学	2008.07.04 ~ 2009.01.03	近代日本化学史の研究
13	MALININA, Elizaveta Evgenyevna	ノボシビルスク 国立総合大学 助教授	ロシア	花園大学	2008.08.01 ~ 2009.03.31	禅の世界観の構造における芸術の意義と役割
14	LEINSS, Gerhard	チューリッヒ大 学 講師	ドイツ	京都大学	2008.08.28 ~ 2009.08.06	日本の暦の文化史的研究
15	PESTUSHKO, Yuri Sergeevich	極東国立人文大 学 准教授	ロシア	名古屋大学大学 院国際開発研究 科	2008.09.01 ~ 2009.08.31	20世紀初頭の日露関係史
16	LESHCHENKO, Nelli Fedorovna	ロシア科学アカ デミー東洋学研 究所 上級研究員	ロシア	早稲田大学	2008.09.28 ~ 2009.03.26	徳川将軍15代、時代背景を映し出す肖像画
17	SZOMMER, Gabor	アレクサンドラ 出版社 編集者	ハンガリー	中央大学	2008.10.01 ~ 2009.03.31	日本におけるオランダ商館の情報システム (1608-1641)
18	KLIMOV, Vadim Yurievich	サンクトペテル ブルク大学 助教授	ロシア	東京大学	2008.10.03 ~ 2009.08.02	19世紀初めのロシアと日本に関する史料の研究
19	BREZANI, Peter	スロバキア外交 政策協会研究セ ンター アナリスト	スロバキア	東京大学	2009.01.16 ~ 2009.03.15	北朝鮮の未来に対する日本の役割は何か? 6カ国協議とその後

2. 人物交流事業費 / (2) 日本研究フェローシップ (論文執筆) [欧州・中東・アフリカ]

人文・社会科学の研究者で博士論文作成のため来日する必要があるものを招へいする。

合計額 41,775,202 円

	氏名	現職	対象国	受入機関	期間	研究テーマ
1	KOZIOL, Gabriele	マックス・プランク外国法・国際私法研究所 博士課程	オーストリア	京都大学	2008.03.15 ~ 2008.11.21	担保としての知的財産ライセンス
2	SCHERLING, Johannes	グラーツ大学 博士課程	オーストリア	南山大学	2008.05.13 ~ 2008.11.07	日本語における英語由来外来語の語用論
3	STEVENS, Merieke	ケンブリッジ大学 博士課程	オランダ	東京大学	2008.06.01 ~ 2008.10.01	供給者関係の原動力：日産とルノーにおけるSCM (サプライ・チェーン・マネジメント) への集中
4	HAFEZ, Naglaa Fathy	芸術アカデミー 言語翻訳研究センター 日本研究科 准講師	エジプト	東京大学	2008.06.02 ~ 2009.08.01	近代日本演劇における『千夜一夜物語』 (戦後演劇について)
5	PUTNAM, David Jerome	チューリッヒ大学 博士課程	スイス	立命館大学	2008.06.17 ~ 2009.08.16	道成寺伝説の様々な実体化において「変身」という概念
6	PATARI, Juho Matti	ヘルシンキ大学 アジア・アフリカ研究所 大学院生	フィンランド	明治学院大学	2008.08.05 ~ 2009.04.15	東京のホームレスの社会相関学
7	GRIKUN, Yuliya	キエフ国立原語 大学哲学部 大学院生	ウクライナ	国際基督教大学	2007.08.29 ~ 2008.10.28	グローバル社会における異文化コミュニケーションに関する日本とウクライナの比較研究：国際化の時代において伝統主義や民族意識はいかに保たれるのか
8	KARPOLUK, Jakub Aleksander	ポーランド国立 学問学院芸術研究所 博士課程 学生	ポーランド	早稲田大学	2007.08.31 ~ 2008.07.31	日本演劇の日本映画への影響
9	EHLERS, Maren Annika	プリンストン大学 東アジア研究	ドイツ	大阪市立大学	2007.09.01 ~ 2008.08.15	徳川時代の貧民救済：大野藩の事例
10	CIUBANCAN, Magdalena	バベシュ・ボヨイ大学 言語学 講師補助	ルーマニア	神戸大学	2007.09.04 ~ 2008.06.30	日本のメディアにおける使役の表現

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	対象国	受入機関	期間	研究テーマ
11	KASZA, Justyna Weronika	リーズ大学 博士課程学生	英国	上智大学	2008.09.18 ~ 2009.09.15	遠藤周作の文学における悪の問題
12	TUCK, Robert James	コロンビア大学 大学院生	英国	早稲田大学	2008.09.25 ~ 2009.11.23	明治時代における詩歌、小説とジャンル：鷗外、漱石、子規
13	WOLSKA- LENARCZYK, Joanna Kamila	ヤギェウオ大学 文献学部東洋学 研究所日本中国 学科 博士論文執筆者	ポーランド	東京大学文学 部・大学院人文 社会系研究科	2007.09.28 ~ 2008.11.27	三島由紀夫の『豊饒の海』における美学と道徳の規範
14	GAITANIDIS, Ioannis	ロンドン大学 博士課程学生	英国	駒沢大学	2008.09.30 ~ 2009.11.29	宮崎県におけるシャーマンの社会医療的な役割
15	MAJSTORAC KOBILJSKI, Aleksandra	ニューヨーク市 立大学大学院セ ンター 博士課程	セルビア	同志社大学	2008.10.01 ~ 2009.09.23	京都とバイロイトにおける近代化～キリスト教の大学を 事例として
16	EL-AMIR, Nilly, Kamal	カイロ大学政治 経済学部アジア 研究センター 研究者	エジプト	早稲田大学	2007.10.29 ~ 2008.12.29	環境安全保障に対する見解：日米対照研究
17	SWITEK, Beata	ロンドン大学 博士課程学生	英国	早稲田大学	2008.11.27 ~ 2010.01.26	在日インドネシア系移民の社会政治学的アイデンティ ティ

2. 人物交流事業費 / (3) 日本研究フェローシップ(短期) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の優れた日本研究者に日本で研究・調査を行う機会を提供する。

合計額 6,025,900 円

	氏名	現職	対象国	受入期間	期間	研究テーマ
1	GALAN, Nataliya	ドニエプロペトロフスク国立大学国際経済学部准教授	ウクライナ		2008.05.20 ~ 2008.06.21	日本における知識ベース企業家精神
2	MOGHADDAM KIYA, Reza	テヘラン大学外国語学部日本研究学科長	イラン	大阪大学	2008.07.03 ~ 2008.08.29	日本人のペルシア語学習者およびイラン人の日本語学習者の発音誤用の比較研究
3	MANSOURI, Mabrouk	スース大学人間社会科学学科准教授	チュニジア		2008.07.21 ~ 2008.08.31	チュニジアと日本における宗教とアイデンティティ：イスラムと神道を中心に
4	BAR-ON COHEN, Einat	ヘブライ大学社会学人類学部	イスラエル		2008.10.01 ~ 2008.11.29	ヘリーゲルの足跡：現代日本の弓道
5	DIMITROVA, Stefania Todorova	文化交流学「Madara-Bulgaria」基金会長	ブルガリア		2008.12.23 ~ 2009.02.20	日本の高校生の社会的能力
6	HENNART, Jean-François	ティルブルフ大学 教授	オランダ		2009.03.05 ~ 2009.05.03	米国製造業に対する日本の直接投資の歴史

2. 人物交流事業費 / (4) 知的リーダー交流 (招へい) [欧州・中東・アフリカ]

諸外国の政治、経済、労働、メディア、教育等の各分野で影響力を有する人材を招へいし、日本側関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 3,686,760 円

	氏名	現職	対象国	期間	事業内容
1	ESTERHÁZY, Péter	作家	ハンガリー	2009.02.04 ~ 2009.02.12	ハンガリー文学を代表する作家であるエステルハージ・ペーテル及びヴィクトリア・エシュバツハ・サボー (Viktoria Eschbach=Szabo: テュービンゲン大学日本学科教授) を招へいし、東京 (2月11日) 及び大阪 (2月8日) において東欧文学に関するシンポジウムを実施。
2	Dr. AMELI, Saied Reza	テヘラン大学 副学長	イラン	2009.02.22 ~ 2009.03.02	テヘラン大学大学院にて日本研究コースの開設に向けて準備作業が進展する中で、同コース開設における最高責任者であるアーメリー副学長を日本に招へいし、日本の研究機関や研究者との知的ネットワーク構築を支援。

2. 人物交流事業費 / (5) 知的リーダー交流 (派遣) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の知的対話の促進と、知的リーダー間のネットワークの構築、強化を推進するため、日本から知的リーダーを海外に派遣し、関係者との意見交換、当該分野での状況視察等の機会を提供する。

合計額 6,039,934 円

	事業名	氏名	現職	対象国	対象機関	期間	事業内容
1	IISSグローバル・ストラテジック・レビュー2008	宮家 邦彦 村田 晃嗣	AOI外交政策研究所 代表 同志社大学法学部 教授	スイス	国際戦略問題研究所 (IISS)	2008.09.11 ~ 2008.09.16	国際戦略問題研究所 (IISS) 主催の会議。各国閣僚、政府関係者、有識者が参加し「グローバル・パワーの変容と紛争解決」について討議。
2	東アジア戦略セミナー	浦田 秀次郎 神保 謙 田中 均	早稲田大学大学院アジア太平洋研究科 教授 慶應義塾大学准教授 財団法人日本国際交流センター シニア・フェロー	フランス	国防高等研究所 (IHEDN)	2008.11.12 ~ 2008.11.13	国防高等研究所 (IHEDN) 主催。日本、東アジア、欧州の専門家が一同に会し、東アジアの戦略的開発、アジアの経済的挑戦や安全保障、地域組織の役割などについて討議。
3	日英気候変動セミナー「気候変動：新たな展望」	藤野 純一	国立環境研究所 主任研究員	英国	クライメート・ストラテジーズ	2008.12.15	気候変動問題について、交渉関係者、専門家等がCOP14終了直後の国際交渉の現状を確認し、COP15に向けた国際交渉の展望、排出削減の中長期目標のあり方等に関して意見交換。
4	国際会議「途上国におけるシンクタンクの役割：課題と解決策」	加藤 普	総合研究開発機構 (NIRA) 理事	エジプト	情報・政策決定支援センター	2009.01.15 ~ 2009.01.20	途上国による新たなイニシアティブとして、途上国のシンクタンク間の連携を深化すると同時に、先進国や国際機関からも参加者を迎え、シンクタンクの抱える課題や問題点について討議。

2. 人物交流事業費 / (6) 知的交流フェローシップ (招へい) [欧州・中東・アフリカ]

日本において人文・社会科学分野の研究を行う諸外国の研究者にフェローシップを供与する。

合計額 36,343,306 円

	氏名	現職	対象国	期間	研究テーマ
1	RATZ, Tamara	コドラーニィ・ヤーノシュ大学 学部長	ハンガリー	2008.03.17 ~ 2008.04.18	健康志向レジャーの社会経済的環境の 側面
2	BEN HAJ REHAIEM, Jalel	ガベス大学 准教授	チュニジア	2008.08.11 ~ 2008.09.24	北東アジアにおける日本の安全保障上 の役割：台湾交流協会日本事務所を中 心に
3	RANDRIANARY, Alice Marie Jocelyne	週刊MIDI 編集長	マダガスカル	2008.08.12 ~ 2008.09.29	観光の潜在性：日本のケース
4	SABIROV, Farkhod	社会経済研究センター 国際関係 課長	ウズベキスタン	2008.08.15 ~ 2008.10.08	国際安全保障と核・生物・化学 (NBC) テロリズム
5	RADHI, Sameer Jasam	バグダッド大学 教授	イラク	2008.08.21 ~ 2008.10.09	イラク復興への日本の役割の研究
6	BUTROS, Raghda Albert	ルワッド 所長	ヨルダン	2008.09.06 ~ 2008.10.08	日本における変化の担い手としての社 会企業家：アラブ世界との経験の共有
7	AHOURE, Alban Alphonse Emmanuel	国立ココディ大学 准教授	コートジボワール	2008.09.14 ~ 2008.11.12	外国人労働者の送金と経済発展および 日本の賃金制度と労働者の内発的・外 発的満足度の研究
8	RASULOV, Ulugbek Abdujabarovich	ウズベキスタン民族大学 講師	ウズベキスタン	2008.10.20 ~ 2008.11.20	農・産業クラスターをベースにした経 済発展問題 (日本の経験から)
9	POPOV, Andrei Mihai	モルドバ外交政策協会 理事	モルドバ	2008.10.27 ~ 2008.12.15	トランスニストリアの紛争解決に向け て
10	RAHMANI, Abdul Latif	カブール大学 准教授	アフガニスタン	2008.10.30 ~ 2008.12.13	日本の現行憲法制度とアフガニスタン における制度との比較研究

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	対象国	期間	研究テーマ
11	【中東グループ研修】 Ali Ali ABDULLAH Mohammad DADKHAH TEHRANI Mostafa MEHRAEEN Mohammed Shaaban EL-SAYYID Vivian TURK Ozgun SARI Amna Hamad AL-ROMAIHI Majeed Safar JASIM Sam A.F. ALFOQAHA Raed Fawzi IHMOUD Tayseer Yousef ABU ODEH Lara Mansour CHAHOUD Aomar MOHELLEBI Sidi Mohammed MOHAMMEDI Abdelhamid ADDI	国家開発計画省モニタリング評価 部長 テルビヤット・モダッレス大学 工学研究科 博士課程 ホメイニー研究センター社会科学 部局 教授 オプシオンワン・インターナシヨ ナル 建築士 ダマスカス大学言語研究所 講師 中東工科大学社会学部 ティーチ ングアシスタント バーレーン研究センター准研究員 バーレーン大学化学工学部准教授 ナジャフ大学マーケティング学部 経済行政学科 講師 アラブ戦略研究所 研究員兼副所 長 ヨルダン大学文学部英文学科 講師 レバノン大学 社会調査員 レクスプレッション紙 記者 社会文化人類学研究センター 研究員 ムハンマド5世大学経済学部 修士課程	イエメン イラン イラン クウェート シリア トルコ バーレーン バーレーン パレスチナ ヨルダン ヨルダン レバノン アルジェリア アルジェリア モロッコ	2008. 11. 10 ～ 2008. 11. 29	「開発と社会」をテーマに中東・北ア フリカより研究者・行政官・ジャーナ リスト等を15名招へいし、3週間の訪日 グループ研修を実施。日本における戦 後の貧困克服や外交政策、日本の経済 思想の形成、現在の高齢化社会への取 り組み、またそれらに影響を与える日 本人の宗教観と国家観を学ぶことによ り、日本社会への包括的な理解を深 め、中東・北アフリカ地域における日 本研究促進へ寄与。
12	ABBASOVA, Sabina Kilindjkan	科学的調査・訓練センター 上級主専門家	アゼルバイジャン	2009. 01. 10 ～ 2009. 02. 21	人口学的発展及び可視的傾向
13	BAYER, Judit	King Sigismund College 准教授	ハンガリー	2009. 01. 26 ～ 2009. 03. 09	日本におけるモバイルコンテンツの 利用と法規制
14	SERFATI, Chakib	農業・海洋漁業省海洋漁業庁 漁業調査官	モロッコ	2009. 01. 31 ～ 2009. 03. 10	モロッコの沿岸地域管理政策:モロッ コ・日本の比較研究
15	BORSI, Balazs	GKI経済研究所 主任研究員	ハンガリー	2009. 02. 01 ～ 2009. 03. 08	日本の技術開発研究所の運営における よい事例
16	MAHGOUB, Mohamed Elamin Elbushra	内務省刑事裁判大学 コンサルタント	アラブ首長国連 邦	2009. 02. 23 ～ 2009. 04. 14	「国際テロリズムの中のジハード」研 究
17	REPECKAITE, Daiva	アドジミマス ウィークリー 特派員・編集員	リトアニア	2009. 03. 03 ～ 2009. 05. 01	日本人の移民及びその空間、ジェン ダー、危険の認知
18	LAUFER, Laszlo	ブダペスト工業経済大学 講師助手	ハンガリー	2009. 03. 20 ～ 2009. 05. 18	介助器具利用に関する心理学的、文化 的側面

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	氏名	現職	対象国	期間	研究テーマ
19	HYNEK, Nikola	国際関係研究所 リサーチフェ ロー	チェコ	2009.03.26 ~ 2009.04.27	日本における人間の安全保障のパラ ダイム-戦略、問題、履行-

3. 催し等事業費 / (1) 知的交流会議（主催）〔欧州・中東・アフリカ〕

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議、セミナー、ワークショップ等）を開催する。

合計額 40,224,704 円

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
1	ゲーテ・インスティトゥート主催会議「国独自の文化」	ドイツ	ゲーテ・インスティトゥート	2008.04.24 ～ 2008.04.26	ゲーテ・インスティトゥート主催の会議「国民文化再考—国境の中の文化の現代的理解に向けて」の中の1フォーラム「フォーラムⅢ：アジアにおける国民文化と地域統合」の準備とパネリストの派遣。 同会議では、現代の人々のアイデンティティが、地方や国、文化との関係でどのように形成されているかという問題を、西欧・東欧やアジアから識者が集まり様々な角度から討議。
2	「オルハン・パムクとの対話」講演会	日本	青山学院大学総合文化政策学部	2008.05.15	世界的に著名なトルコ人作家で、2006年にノーベル賞を受賞したオルハン・パムク来日の機会を捉え、文学の分野において日・トルコ間の交流及び相互理解を促進するため、青山学院大学にて講演会と辻井喬との対談を実施。
3	日露知的対話事業	日本	社会計画研究所 日本放送協会	2008.05.22	メドベージェフ大統領によるロシア新政権のブレイン集団である「11月4日クラブ」の主要メンバーが来日する機会を捉え、日本国内で知的対話を行うことにより新政権の方向性につき聴取すると共に、現代日本の状況を理解する機会を提供し、日露の新たな知的交流のネットワークを構築。
4	アルザス日欧知的交流事業／日本研究セミナー「江戸2」	フランス	アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）	2008.09.26 ～ 2008.09.27	欧州域内若手日本研究者による合宿形式のセミナー。アルザス欧州日本学研究所（CEEJA）との共催。欧州内日本研究者のネットワーク構築と当該テーマにおける汎領域的研究の深化を目指す。本年度のテーマとして「江戸」を設定、講師として田中優子（法政大学教授）を派遣。
5	中東巡回知的交流セミナー	イラン シリア ヨルダン		2008.10.19 ～ 2008.10.26	中東各国の関心層（研究者、ビジネスマン、学生）を対象に、日本の労働問題・家族政策・男女共同参画・少子化対策等をテーマとする研究者2名、および中東の女性問題に詳しい研究者1名を日本から派遣し、セミナーを実施。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
6	日ロ文学対談	ロシア	光文社 毎日新聞社	2008.10.24 ～ 2008.10.25	亀山郁夫（東京外国語大学学長）をモスクワに派遣し、講演会とロシア人作家ボリス・アクーニンとの公開対談を実施。「グローバル化時代に生きつづけるドストエフスキー」をテーマに、日本でのロシア文学の受容の歴史と、現代日本におけるドストエフスキー熱について討議。
7	アニメ・シンポジウム	ドイツ	35MM（映画館） ベルリン日独センター	2008.10.30 ～ 2008.10.31	ドイツのベルリン日独センターと共催で、国際シンポジウム「グローバル文化としてのアニメ」を開催。グローバルな規模でもっとも普及しているアニメであるセル・アニメーションを技法的基盤としてきた映像メディアを取り上げる。制作および鑑賞のグローバル化、「日本性」の役割を、日独両国の研究者、アニメ製作関係者が多角的に議論。
8	中東欧日本研究巡回セミナー	クロアチア スロベニア ポーランド		2008.11.13 ～ 2008.11.22	中東欧諸国では未だ発展途上の社会科学分野の日本研究に知的刺激を与えるべく、2008年11月13日～22日の10日間、スロベニア・クロアチア・ポーランドの4大学に政治学、社会学の学者を派遣し、各地で講演・質疑応答を実施。
9	ザルツブルク・グローバルセミナー報告研究会	日本	ザルツブルクセミナー	2008.12.05	オーストリアの代表的知的交流機関であるザルツブルク・グローバルセミナーのセッション455「平和創造と平和構築：女性とシビル・ソサエティの貢献の確保」に企画参画型助成で支援し、日本から専門家3名を派遣した。帰国後、参加者が基金本部において公開のセミナーを開催し、成果を発表。
10	ラウンドテーブル「文化が創る平和」	日本	ゲーテ・インスティトゥート	2008.12.08 ～ 2008.12.09	国際交流基金およびゲーテ・インスティトゥートの過去数年の事業の中から紛争地における活動を洗い出し、「国際文化交流事業が平和構築において果たし得る役割」を積極的に評価し、議論を行う。2009年5月の公開シンポジウムの準備会合として、今年度は非公開ラウンドテーブルを東京にて開催。
11	モスクワ日本研究講演会	ロシア		2008.12.18	ヨーゼフ・クライナー（法政大学特任教授）と田中優子（法政大学教授）をモスクワに派遣し、古代日本人、帰化人、アイヌや琉球・沖縄民族などにみられる日本文化の中の様々な「異文化」の諸相や、異質に見えつつも現代日本文化の基層を成す江戸時代におけるポップカルチャーなどを紹介。またロシア日本研究者協会のドミトリー・ストレリツォフ会長も交えて討議。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	対象国	共催・協力機関	期間	事業内容
12	多元性へーグローバルゼーションとアイデンティティ	日本		2009. 02. 06	ミッテラン大統領政権を通じて文化大臣を務め、21世紀の今日も現代社会について積極的な発言・活動を繰り広げているジャック・ラングを日本に招へい。グローバルゼーション、伝統文化、文化的多様性、地域・国・地方のアイデンティティ、多極化する世界、などのテーマをめぐり、芳賀徹(京都芸術造形大学名誉学長)、小倉和夫(国際交流基金理事長)等とのパネル・ディスカッションを実施。
13	知的交流セミナー：女性をめぐる問題について	オマーン	スルタンカブース大学	2009. 02. 13 ~ 2009. 02. 21	遠山敦子(新国立劇場運営財団理事長)を講師として派遣し、スルタンカブース大学の協力のもと、日本の教育制度や文化、女性の社会進出に関して自身の体験もふまえた講義を実施。オマーンの女性指導者との会談や知的交流機関を訪問する機会を設け、両国の知的交流に関して意見交換を実施。
14	日本・アフリカ報道関係者会議 - 日本・アフリカ関係の新たな展望：さらなる相互理解に向けての課題と報道の役割	カメルーン		2009. 03. 04	日・アフリカ双方の報道関係者及び学者が、両国の報道、さらには今後の日・アフリカの相互理解に向けた課題と報道の役割について議論する国際会議を実施。また会議終了後には、日本側参加者による特別講義を現地大学にて実施。
15	ロシア日本理解講座	ロシア	ロシア国立外国文献図書館	2009. 03. 04 ~ 2009. 03. 25	在ロシアの日本研究者、日本文化専門家等に依頼し、一般市民を対象に日本に関する講義を実施。
16	人の移動と文化的アイデンティティ	日本	アデナウアー財団 関西国際交流団体協議会	2009. 03. 11 ~ 2009. 03. 12	アジアとヨーロッパにおける「人の移動」に関するシンポジウムを、ドイツのコンラッド・アデナウアー財団との共催により開催。日本とドイツにおける移民受入政策の違い、多文化共生の課題などの共通課題を取り上げ、アジアとヨーロッパにおける地域主義の今後の展望を議論。

3. 催し等事業費 / (2) 知的交流会議 (助成) [欧州・中東・アフリカ]

日本と諸外国の相互理解の促進と、より緊密な関係の構築、世界の知的交流の推進を目的とした、国際的な知的共同事業（国際会議等）に対し、経費の一部を助成する。

合計額 50,851,253 円

	事業名	助成機関	対象国	期間	事業内容
1	想像の日本：現代視聴覚文化における日本的なるものとファンタジー	フィンランド映画研究協会	フィンランド	2008.04.01 ~ 2008.10.31	フィンランドの若者の中で急速に人気を得た日本の映像文化のグローバル化について、日本とヨーロッパの研究者が議論。特に日本的なるものや日本が生み出しているファンタジーの特質とは何かという点に焦点を当て、学者のみならず幅広い関心層が参加。
2	ウィルトン・パーク・カンファレンス「日本：グローバル経済における挑戦と機会」	ウィルトン・パーク	英国	2008.04.01 ~ 2008.11.30	「日本：グローバル経済における挑戦と機会」と題し、3日間集中的に行なわれる会議。9つのセッションそれぞれに日本の学会・産業界等から1~2人が参加。
3	多文化主義・多言語主義と言語学習日伊比較	トゥーシャ大学	イタリア	2008.04.01 ~ 2008.12.31	現代における多言語・多文化を背景に、外国語や外国文化がどのように学ばれるか、また自国語や自国文化にどのような影響（外来語など）を与えるか、という問題について日欧の研究者が探る学術会議。
4	国際会議：生物文化多様性の保護—グローバルな課題	ウィーン農芸大学	オーストリア	2008.04.01 ~ 2008.12.31	ウィーン農芸大学環境保護・自然保護研究センターが主催する国際会議。日本の里山というモデルを取り上げ、人間と自然との共存の可能性を議論。
5	日蘭外交関係150周年に関するシンポジウム	オランダ・クリンゲンダール国際関係研究所	オランダ	2008.04.01 ~ 2008.12.31	日蘭修交通商条約締結150周年を記念して行われる、日蘭外交関係に関するシンポジウム。歴史を振り返るとともに、より広い文脈で日蘭の果たしうる未来を討議。
6	アジアにおける安全保障と開発	安全保障・開発政策研究所	スウェーデン	2008.04.01 ~ 2009.02.28	2008年6月にストックホルムで、国際政治学者や政策決定者等を集め、北東アジア及び東南アジア地域が直面する安全保障の「新たな脅威」について幅広く議論。
7	国際シンポジウム「日仏芸術交流の150年」	日仏美術学会	日本	2008.04.01 ~ 2009.03.31	豊かな日仏文化交流の中でもとりわけ実りの多い美術分野の交流についての国際シンポジウム。日仏友好150周年記念。1日目は19世紀後半を対象に、ジャポニスムやパリに学んだ日本人洋画家について、2日目は20世紀前半を対象に、日本のフランス美術受容や両大戦間のパリでの日仏芸術交流について、日仏の研究者が集い考察。
8	第6回日・ロ学術・報道関係者会議	日本対外文化協会	ロシア	2008.04.01 ~ 2009.03.31	「ユーラシアの発展の道を模索する」というテーマのもと、安全保障、資源獲得競争等の問題につきロシアの政治家、評論家、ジャーナリストとの会見及び現地視察、討議等を実施。また学生や一般市民向けの公開討論会を実施。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	助成機関	対象国	期間	事業内容
9	「検閲・自主検閲・禁忌」国際会議	ストラスブール大学 日本学科	フランス	2008.04.01 ～ 2009.03.31	古今東西の検閲・自主検閲・禁忌の起源や形式を分析し、ひいては「自由」や「表現の自由」の概念を再検討する会議。
10	第2回国際華厳学会	フランス極東学院	フランス	2008.04.01 ～ 2009.03.31	仏教のみならず西側の諸宗教にも広く影響を与えた華厳思想をめぐって、その哲学的・歴史的研究成果を深めるとともに、現代の自然と社会の問題について、心理学・社会学・宗教学それぞれに対して華厳思想の果たす役割を検討する国際会議。
11	越境する映画文化—異文化間対話促進における映画の役割	欧州評議会	フランス	2008.04.01 ～ 2009.03.31	欧州評議会による、コーカサス・黒海諸国間の文化協力推進を目指す「キエフ・イニシアティブ」プログラムの「越境する映画文化」企画による会議。同諸国と欧州・日本の映画関係者がエレバンの国際映画祭に集い、異文化間対話・関係構築のためのツールとしての映画について討議。
12	社会政治学的に見た徳川時代の思想	ケンブリッジ大学 東アジア研究所	英国	2008.04.01 ～ 2009.03.31	2009年3月にケンブリッジにおいて4日間にわたり徳川時代の思想や宗教に関する研究について議論を行うための会議を開催。とくに仏教、神道、国学、儒学などに焦点を絞り、過去20年の研究成果を発表。徳川時代の研究に関する会議は40年ぶり。ヨーロッパ各国から著名な日本研究者が参加。
13	国際会議「アジアのソフトパワー」	フランクフルト大学 経済学部	ドイツ	2008.04.02 ～ 2009.03.30	本会議の実施にはフランクフルト大学東アジア研究所が深く関与し、同研究所が開催する初の国際会議として、東アジアにおけるソフトパワーについて討議。様々な専門家の視点を取り入れ、各国のソフトパワーの生産、用法および影響力を考察。
14	研究交流：前1千年紀前半のアナトリアとシリア	財団法人中近東文化センター	日本	2008.04.19 ～ 2008.04.27	前鉄器時代の解明に向け、アナトリア考古学研究所が従来より発掘調査してきたトルコ共和国のカマン・カレホユック遺跡に加え、当時のもう一つの中心地であるカルケミシュの成果を参照しながら、国境にあるため発掘に制約がある同地に関し、シリア側でのこれまでの調査研究の成果を共有するための、講演会やセミナーを実施。
15	国際会議「日本・欧州・アジア～戦略的パートナーシップと地域統合」	ブリュッセル自由大学	ベルギー	2008.05.01 ～ 2008.11.30	ブリュッセル自由大学を中心に、ベルギーのシンクタンクであるTEPSAや国際基督教大学などの協力を得て開催する国際会議。日EU間の戦略的協力関係を深めるべく、アジア欧州の両地域が直面する諸問題について幅広く議論。
16	持続可能な開発に関する社会科教科書づくりに向けた日独ワークショップ	ベルリン日独センター	ドイツ	2008.05.01 ～ 2008.10.31	持続可能な開発について、どのように教育し、そのためには、どのような教材が求められているかを考察、議論する日独教師のワークショップを実施。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	助成機関	対象国	期間	事業内容
17	国際ワークショップ「十字路にたつロシアのヴォルガ・ウラル地域：帝国・イスラーム・ナショナリティ」	「十字路にたつロシアのヴォルガ・ウラル地域」実行委員会	日本	2008.05.01 ～ 2009.03.31	日本・欧米・ロシアから専門家がカザンに集まり、沿ヴォルガ・ウラル地域に着目し、「境界」の視点からロシアとイスラーム世界の関わりについて研究した成果を報告するワークショップを実施。
18	国際会議「グローバル・ガバナンスー日米英独のアプローチ比較」	ベルリン日独センター	ドイツ	2008.06.01 ～ 2009.02.28	日米関係を、英米、独米等の外国関係と比較・考察する会議をベルリンにて開催。二国間関係の比較にとどまらず、グローバルガバナンスという視点からも討議。
19	国際会議「日本の文化の伝統と現在」	ウクライナ国立科学アカデミーイルスキー芸術学・民族・民俗学研究所	ウクライナ	2008.06.01 ～ 2009.03.31	日本を特集した紀要の刊行に合わせ、紀要の執筆者をキエフに招へいして「日本文化の伝統と現在」と題する講演会と学術会議を実施。
20	「生への存在」シンポジウム	フランス国立社会科学高等研究院日本研究所	フランス	2008.08.23 ～ 2008.08.30	和辻哲郎の「生への存在」という概念を軸に、現代社会が陥っている袋小路（例えば環境問題）を打開する方途につき、西欧の「個人」重視の思想と日本の「場」重視の思想の相互補完性をめぐる会議。
21	社会起業とソーシャル・イノベーションに関する日英研究会議	リンクス・ジャパン	英国	2008.09.01 ～ 2008.11.30	2008年11月に英国の社会起業家および社会起業に関する研究者が日本を訪問し、日本のカウンターパートと共に社会起業家を訪問して意見交換を実施。合わせてワークショップを開催し、日英両国の現状と問題点を検証。
22	ザルツブルク・グローバル・セミナー	ザルツブルクセミナー	オーストリア	2008.09.07 ～ 2008.09.12	平和構築における市民社会の役割というテーマのもと、50人の知的リーダーを集め、5日間にわたりワークショップおよび会議を実施。
23	「途上国の法制度改革における慣習法と制定法の制度的優位比較」ワークショップ	ルーヴァン・カトリック大学	ベルギー	2007.10.01 ～ 2009.12.31	日独仏米等の国から専門家が集まり「途上国の法制度改革における慣習法と制定法の制度的優位比較」について討議するワークショップを実施。
24	国際会議「少子化問題と格差社会ー日独比較」	ドイツ-日本研究所	日本	2007.11.01 ～ 2008.12.01	ドイツも日本も直面している少子化問題をテーマとした会議。社会階層化と少子化との関係を分析する、という新しいアプローチである。社会階層化という問題における地域・教育・職種など様々なファクターを考察。
25	国際シンポジウム「現代における価値観の変容」	青山学院大学	全世界区分困難	2008.11.08	国内の複数の大学、研究所が、海外研究機関との連携により現代における価値の変容、価値観の国際比較調査の方法論、社会調査のインフラストラクチャー構築を視野に、今後の世界における価値観の変化の方向性を探求。

欧州・中東・アフリカ交流事業費

	事業名	助成機関	対象国	期間	事業内容
26	国際ワークショップ「長期的アラブ諸国研究ネットワークの構築—グローバル化時代における相互理解と共同研究のために」	中東統計データ・アーカイブ・フォーラム	日本	2008.12.05 ～ 2008.12.08	日本独自の社会科学的アラブ地域研究を構築するために国際ワークショップを開催。同ワークショップでは研究者・実務家間で意見交換を行い、今後の日本とアラブ諸国の社会科学における調査・連携のあり方について討論。
27	国際会議「翻訳とトランスカルチュラル研究」	テュービンゲン大学	ドイツ	2009.03.01 ～ 2009.03.31	異文化研究における「翻訳」のあり方につき、ドイツ、日本、韓国の研究者が集い、国際会議を開催。成果はウェブサイトにて公開。
28	異文化間都市会議	欧州評議会	フランス	2009.03.01 ～ 2009.04.30	異なる文化的背景を持つ人々の社会統合を、価値創造も含めて、都市レベルで探る試みとしての「インターカルチュラル・シティ・プログラム」の一環として、ティルブルク市（オランダ）にて開催される国際会議。同プログラム参加都市の代表のほか、米豪南アなどから研究者が参加。日本からは、北脇保之（東京外国語大学教授）、桜井啓子（早稲田大学教授）が出席。
29	国際会議「国の栄光の時代の想起」	ゲント大学	ベルギー	2009.03.18 ～ 2009.03.20	歴史的・社会的・民俗学的、またスポーツ研究をベースにしたアプローチにより、日欧米の著名な研究者が集い、スポーツと国民のアイデンティティの関係を討議。